

日本百名山 登山日記

歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です



vol.30 鳳凰山(日本百名山 34/100)

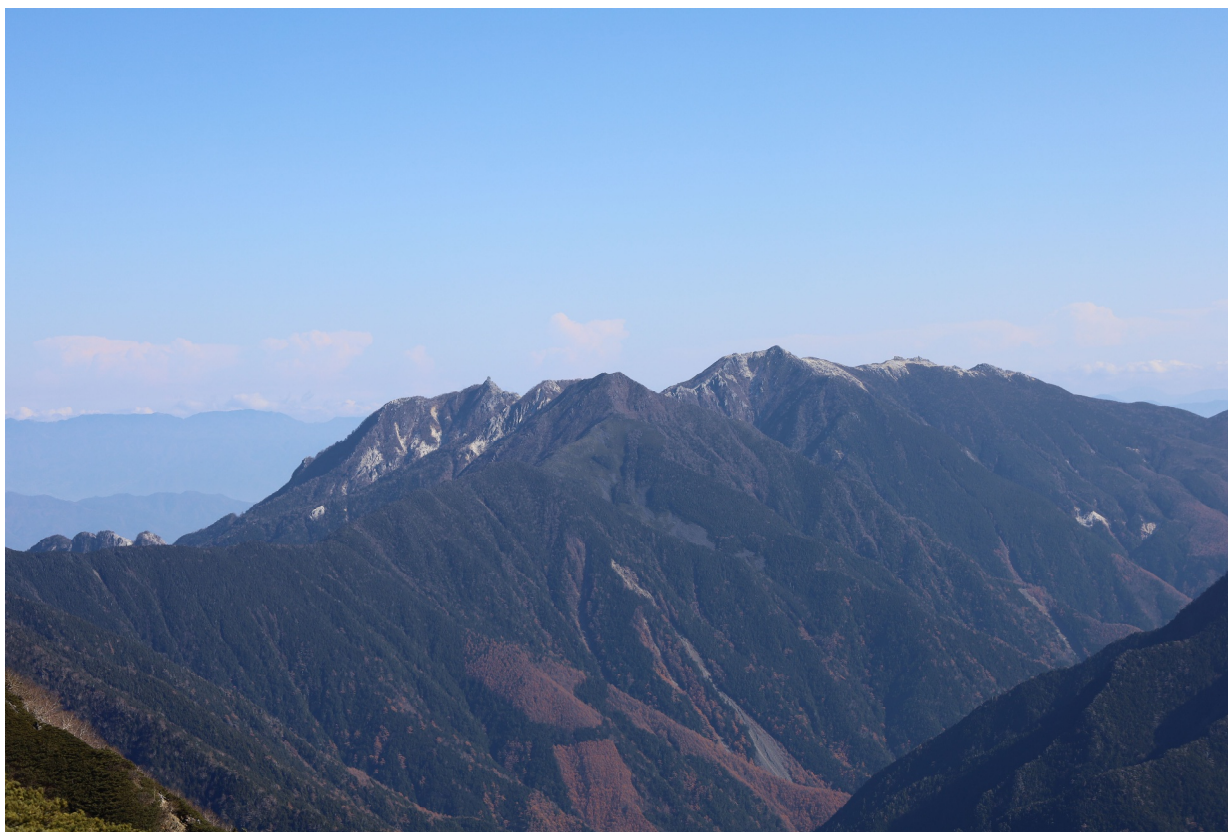
四月下旬、山口県では初夏の陽気も感じさせるおだやかな季節ですが、アルプスなどの山々はまだまだ残雪期であり、3,000mに迫る高峰は6月中旬以降にならないければそれなりの装備を持たぬ限り、容易に人を寄せ付けません。

ただ、そんな中でも南アルプスの東側に位置する山々は、他に比べ降雪量が少なく雪解けも早いいため、比較的容易に登る事が出来ます。未踏の日本百名山への登山を考えた場合、この時期に安全に登れる山域は南アルプスしかありません。その中でも、特に降雪量が少なく危険の少ない山として、鳳凰山を目指す事にしました。

鳳凰山は、南アルプス北東部にある3つの山の総称で、北から地蔵ヶ岳（標高2,764m）、観音ヶ岳（標高2,841m）、薬師ヶ岳（標高2,780m）からなり、鳳凰三山とも呼ばれています。

このうち、日本百名山としてカウントする場合は、一般的に最高峰である観音ヶ岳を指しますが、鳳凰山の山名の由来も他の山同様に諸説あり、どこのピークを鳳凰山と言うかも含め山名論争が展開されてきたとも言われています。

さて、鳳凰山を特徴付けるものとして外せないのが地蔵岳のオベリスクです。ただし、このオベリスクは人の手によるものではなく、自然の造形美です。鳳凰山の地質は花崗閃緑岩からなり、花崗岩類の例に漏れず風化残りの大岩塔で、奥秩父 金峰山の五丈岩と同様にこの山のシンボルとなっています。



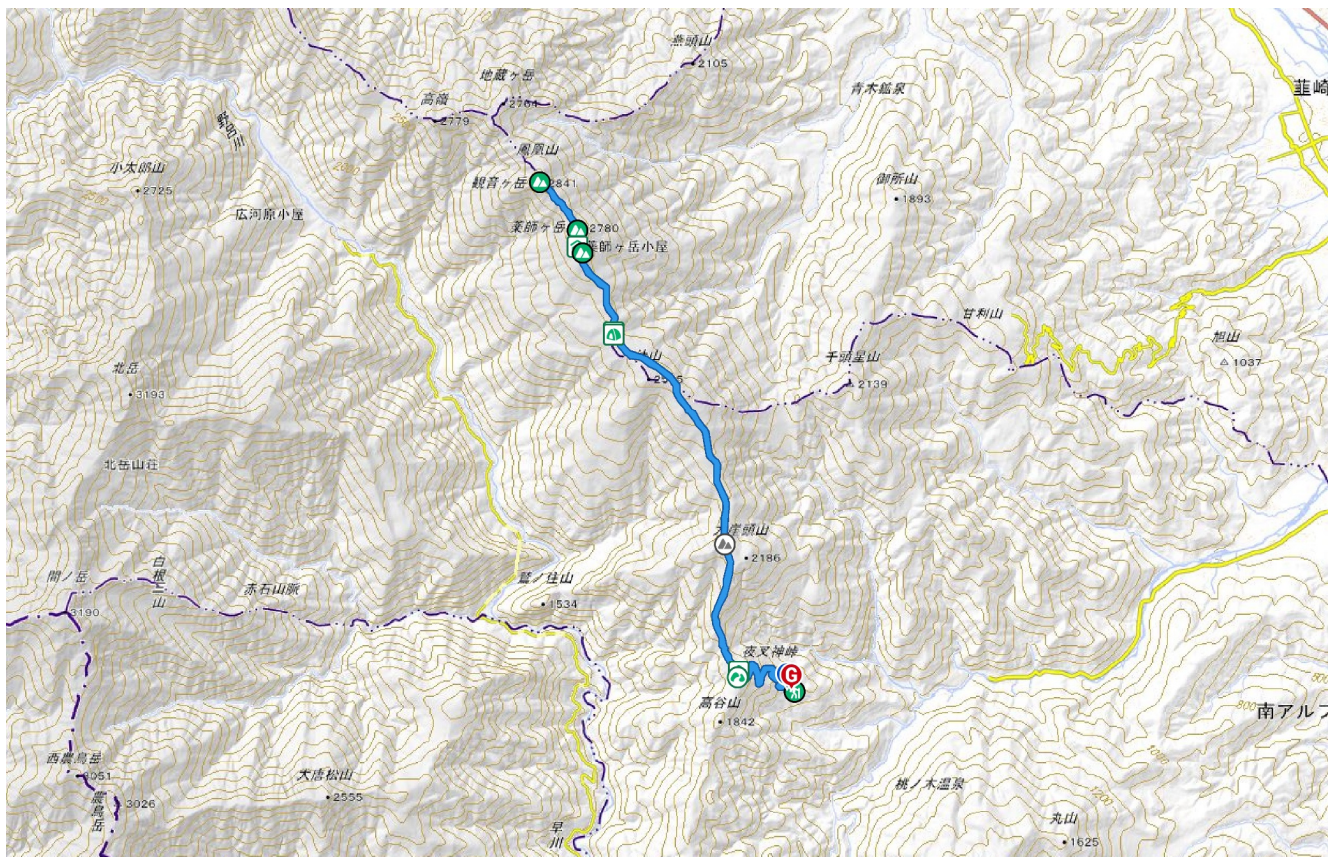
仙丈ヶ岳から見る鳳凰山（左側のオベリスクが地蔵岳、中央が観音岳、その右が薬師岳）



出典:ヤママップ地図

では、今回の山行について報告します。

毎回のことですが、1日目は山口県から南アルプス（今回は山梨県南アルプス市芦安芦倉から入山）へ車移動します。鳳凰山の登山道はいくつかありますが、残雪期は夜叉神峠登山口からのルートがメジャーだとの事で、今回はそれに倣いました。



登山データ：距離 21.1km 累積標高上り 1,974m 登山区分 日帰り（ヤママップのデータを転記）

出発日の金曜日は深夜割を活用するため、朝3時半に自宅を出発、もう何度も通っている新東名の新清水JCTから中部横断自動車道を北上し山梨県に入ります。

今回の夜叉神峠登山口は、南アルプススーパー林道（一般車両通行止め）の起点にあり、無料の駐車場に公衆トイレ、また入浴施設もある食事処が併設され、至れり尽くせりの場所です。

狭いくねくねした林道を長時間運転して辿り着く登山口とは異なり、高速道路を下りてから1時間もかからずに到着できる素晴らしい場所です（当然ながら、狭くてくねくねはあります）。

高速道路を降り、市内の日帰り温泉にゆっくり浸かってから夜叉神登山口に到着したのは16時少し過ぎ、さすがに平日であることから、駐車場には数台の車しかいません。それらの車はすべて、もぬけの空で、たぶんテント泊等で入山されている方です。という事で、私以外誰もいません。



駐車場はガラガラ（ここには熊が出るらしい）



大人の事情の南アルプススーパー林道 入口ゲート

いつもの通り、他の車にぶつけられる可能性が限りなく低い場所を選び駐車、コンビニ弁当で早めの夕食とし、食後はすぐに寝床の準備します。

夜叉神峠から観音ヶ岳までの往復のコースタイムは13時間20分、距離は約21km、それほどの急登や危険箇所もないことから緊張感はないものの、残雪により少し時間がかかることも予想されることから午前2時の出発を予定、1時には起床したいのでさっさと寝ることにしました。

さて、予定通り午前1時に起きると、10台程度の車が駐車していました。私はすぐに、お湯を沸かして、減っていない腹にカレーメシとパンを詰め込み、着替えを済ませた1時53分、夜叉神峠登山口を出発します。毎度のことながら、入り口には熊注意の看板、緊張感が少しだけ高まります。



いよいよ登山開始、この瞬間はなんとも言えず好き

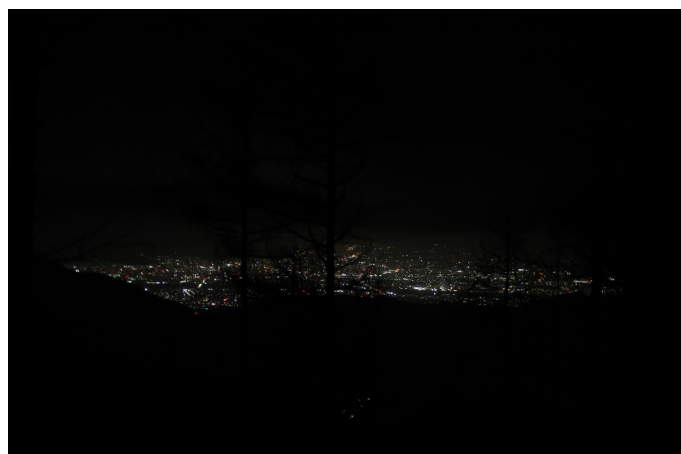


騒がしすぎる看板に、深夜の一人ツッコミ

いつもの通り、一人寂しく真っ暗闇の登山道を進むと、ヘッドライトの灯に動物の目が光ります。周囲を見渡すと、あちらこちらに光る目があり、完全に囲まれています。正直、気持ちの良いものではありません。正体は鹿だとわかっているのですが、あまりの数の多さ、ここから20分程度、どこを見ても目が光っている状況に監視されているようで段々嫌気がさし、途中で何回か石を投げたり大声を出して追い払いました。



不気味なので、こっちを見なくてよいです



木々の隙間から甲府盆地の夜景が見えます

さて、40分ほど歩くと夜叉神峠に到着です。ここからは尾根歩きとなり、少し歩くと山小屋（夜叉神峠小屋）に到着します。

下山時にわかったのですが、ここからは南アルプスの絶景が拝め、ハイキングの方はここを目的に登られてランチをしていました。しかしながら、真っ暗闇の中に閉店している山小屋は正直、不気味さMaxです。登山をしていて私が一番怖いのは、不意に現れる人工物です。

さて、ここからは永遠に続くとも思えるようなダラダラとした樹林帯の中の上りとなります（森林限界となる砂払まで約7km）。昼間なら眺望もなく飽きてくるのですが、ヘッドライトの範囲しか見えないナイトハイクでは、先の急傾斜もわからないため、淡々と登り続けるしかありません。

結果として、一定のペースで精神的にも安定して歩けるので、恐怖は別として嫌いではありません。



夜叉神峠に到着、真っ暗で何も見えません



途中からガスってきて、更に視界が狭まります

それほど急登もなく約2時間20分後、苺平に到着しました。と言っても何も無い場所です。

そこからは山腹をトラバースするように歩きますが、大半は下り坂で、帰路に上り返すことを考えると憂鬱になってきます。

さて、この頃になると日が昇り始め周囲を見渡せるようになってきました。

南御室小屋テント場手前のビュースポットに到着すると、甲府盆地方面が見え、目の前には朝日に照らされた雲海が広がっており、夜中に見えていた甲府盆地もすっかり雲に飲み込まれています。そして、この辺り（標高2,500m付近）からは雪が増え、歩行速度に若干の影響を与えるようになってきましたが、山頂までの間の雪質は悪くなく（朝一番で凍って、適度に締まっていた）、特にアイゼンやチェンスパイクを使わずに、問題なく登ることが出来ました。

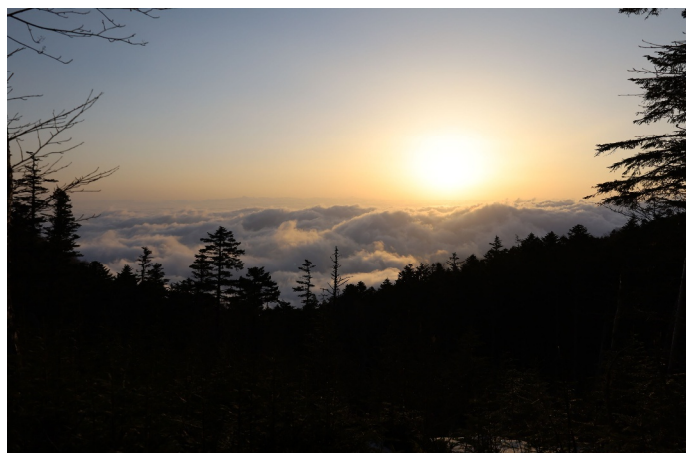
但し、帰路は雪も緩んでいたため、踏み抜き地獄で腰近くまで埋まったりで大変な目に遭いました。



先の状況が不明な暗闇の中の雪道は神経を使います



明るくなると視界が一気に開け快適そのもの



木々の隙間から朝日と雲海、良い天気になりそう



ここを登ると森林限界を突破です

標高2,600m付近を過ぎると、いよいよ森林限界をむかえ一気に眺望が開けます。と同時に、遮るものの無い稜線上では、強風により一瞬で体温が奪われていきます。このままでは、登山で危険な低体温症に一直線です。ただし、この日の気温は氷点下まで下がっていないので、風を通さない上着を一枚羽織るだけで十分に対応できました。

砂払岳からは、南アルプスの3,000m峰である白根三座が目の前にドーンです。快晴とはいきませんでしたが、冠雪した山々はやはり美しく、青空とのコントラストが最高でした。

砂払岳から少し降りると薬師小屋です。そして、誰もいない薬師小屋を過ぎると目の前には薬師岳、そして観音岳に続く美しい縦走路が目の前に広がります。

雪の斜面を上った後、日当たりの良い稜線には雪は無く、花崗閃緑岩の風化が作り出した標高2,800m超えの美しい白いビーチを歩くこと数分、午前7時00分ちょうどに薬師岳に到着です。



目の前には冠雪した南アルプスの主脈が広がります



この風景を見るためだけに歩いてきました



南に目を向けると雲海の上に富士山が薄っすら



薬師岳は目の前です

薬師岳からは、南アルプスの山々の他に薄っすらと富士山も見えます。霞がかっていなければもっと素晴らしい風景が見えたのですが、贅沢は言えません。



薬師岳山頂です



素晴らしすぎます、感無量とはこのこと

薬師岳の山頂で何枚かの写真を撮影した後、いよいよ最高峰の観音岳に向かいます。

途中、雪の斜面の通過時にやや慎重になる場面もありましたが、特に問題なく約20分で観音岳に到着しました。

山頂は貸し切り状態、強風のため長居はできませんが、目の前には地藏岳のオリベクスがはっきりと見ることができ、これですべての目的は達成、また雲の切れ間から甲斐駒ヶ岳も見え大満足です。



薬師岳から観音岳に続く縦走路は美しい



岩場をトラバースして行きます



山頂直下には多少雪が残りますが問題なし



観音岳山頂に到着



北に目を向けると地藏岳のオリベクス



ガスが生き物のように一気に湧いてきました

ただ、山頂は相変わらずの強風で寒い……という事で、写真を撮りそそくさと下山です。

ここまでで出会った人は3人のみでしたが、下山中は翌日も天気が良いためか、多くのテント泊装備の方とすれ違ったため、熊を気にせず意気揚々と下山、11時30分、無事に夜叉神登山口に到着しました。

今回の登山は、今シーズン初の2,800m超えであったため、高山病も含め体調面で多少の不安もありましたが杞憂に終わって良かったです。

美しい鳳凰三座、またいつの日か今度は地藏岳へ別の登山口から登れることを楽しみにしています。